

## 前橋市社会福祉審議会 第2回高齢者福祉専門分科会 議事録

◆ 日 時 平成30年11月15日（金） 午後1時30分～午後3時55分

◆ 場 所 前橋市役所 11階 南会議室

◆ <出席者> 12名（敬称略）

委員： 牛久保美津子（群馬大学大学院）  
仲道宗弘（群馬司法書士会）  
西野郁生（前橋市歯科医師会）  
矢嶋美恵子（群馬県看護協会）  
塚田昌志（前橋市社会福祉協議会）  
白石高士（前橋市老人クラブ連合会）  
山田彰子（前橋市民生委員・児童委員連絡協議会）  
桑原英真（群馬県老人保健施設協会）  
角張桂子（群馬県老人福祉施設協議会 中毛ブロック）  
野中和英（群馬県介護支援専門員連絡協会 前橋圏域支部）  
武井謙介（群馬県在宅福祉サービス事業者協議会）  
三俣和哉（群馬県地域密着型サービス連絡協議会）

<欠席者> 2名

長谷川亮輔（群馬弁護士会）  
橋爪洋明（前橋市医師会）

<傍聴者> 1名

◆ 議事内容 1 開会

2 あいさつ

3 議事

- (1) 職務代理者の指名について
- (2) 第6期まえばしスマイルプランの総括について
- (3) 第7期まえばしスマイルプランの取組状況について

4 市長諮問

5 その他

- (1) 特別養護老人ホーム入所申込状況調査の結果について
- (2) ひとり暮らし高齢者調査の結果について

6 閉会

◆ 配布資料

- ・ 第6期まえばしスマイルプランの総括について
- ・ 第7期まえばしスマイルプランの取組状況について
- ・ 特別養護老人ホーム入所申込状況調査の結果について
- ・ ひとり暮らし高齢者調査の結果について
- ・ 2025（平成37）年の推計人口等について

## 1 開 会

町田介護保険課長

- ・委員14名中12名の出席により本分科会が成立していることを報告
- ・会議及び会議録が公開であることを報告

## 2 自己紹介

## 3 議 事

### (1) 職務代理者の指名について

- ・前橋市社会福祉審議会条例第6条6項に基づき、専門分科会長があらかじめ指名  
<質疑等>

(牛久保会長) あらかじめ指名するということであるので、橋爪委員にお願いしたいと思う。

(委員一同) 了承。

### (2) 第6期まえばしスマイルプランの総括について

- ・資料に基づき事務局(吉澤副主幹、黒岩主任)から説明  
<質疑等>

(仲道委員) 要介護認定率の推移について、高齢者人口が増えている中で、平成28年から平成29年にかけて要介護認定者が減少した要因をどのように考えているか。

(事務局) 平成29年度から総合事業が始まり、総合事業を利用になる方が地域支援事業に移行しているので、その分の利用状況が変わってきている。元気な高齢者が増えているのであれば、予防事業が非常に活発化してきていることに結びつくことになるが、この部分の分析を進めていく必要性を感じている。

(武井委員) 要介護認定等の更新状況について、改善の割合が示されているが、全国的な数値はどうなっているか。

(事務局) 比較はまだしていない。

(牛久保会長) 要支援2の方が要介護5になったなど、かなり重度化した方の理由は分かるか。

(事務局) 個別の事案ではなく、全体の統計をとっているのですが、わからない。より細かな分析が必要だと感じる。

(牛久保会長) ケアマネジャーへの面接指導は、誰が行ったのか。

(事務局) 給付適正化係の保健師資格を持った職員が対応している。1件あたり約1時間をかけて行っており、ケアプランの内容の改善点等を直接指導している。この方法は、県内では初であり、全国的にも珍しい方法である。

(西野委員) 医療情報との突合で、何か問題になるようなことがあったか。

(事務局) 例えば入院をした場合で、特定の日に入院の情報と介護サービスの利用が重複したような場合があるので、各事業所に確認をしている。確認の結果、過誤修正の手続きをとっていただいている。

(仲道委員) 地域密着型通所介護への移行があまり見られなかった原因や理由は何か。

(事務局) 平成27年度の介護報酬改定により、通所介護全体の報酬が約1割下がった。地域密着型の定員数は18名以下であり、あまり収益が見込めないことから、通常規模の通所介護へ移行する事業者が多かったと思われる。また、密着型通所介護の場合、利用者が前橋市

内の方に限定されてしまうことも理由と考えられる。

(野中委員) 認知症初期集中支援体制の対象者把握事例数が、年々減っている理由はあるのか。

(事務局) 平成25年度からモデル事業として開始しており、開始した当初は、元々包括支援センターが抱えていた困難事例が対象としてまとめて上がってきたため、それがチームにつながった後は、若干減少傾向である。平成30年度からは、医療機関と直接連携する等して工夫している状況である。

(塚田委員) 地域包括支援センターが、成年後見制度の相談窓口として順調に機能しているかと捉えているということが良いのか。

(事務局) 成年後見だけのことを言っているわけではなく、虐待ケース等も含めて関係機関との連携が図れているという認識である。

(塚田委員) 包括支援センターだけでなく、前橋市全体で成年後見人のニーズの掘り起こしを積極的に取り組んでいただきたい。

(矢嶋委員) 退院調整ルールについて、連携が強化されたと評価した理由は何か。

(事務局) 様式を検討するために、ケアマネジャーと病院が情報交換会を何度も開催したことで、両者の関係性も深まっているという認識である。また、今年度に提示された国の様式と前橋の様式に違いがあることから、検討のために引き続き情報交換をし、作り上げているということも含めて評価した。

(矢嶋委員) 「私の人生ノート」の普及状況はどのように評価しているのか。

(事務局) 民生委員への説明や、医師会が開催する講演会や研修会にて一般市民への説明、また、おうちで療養相談センターに依頼があれば、各地域のふれあい・いきいきサロン等でも説明を行っている。少しずつではあるが、一般市民や医療関係者、介護関係者にも広がっているという認識である。

### (3) 第7期まえばしスマイルプランの取組状況について

#### <質疑等>

(桑原委員) 介護医療院の整備目標が2施設と少なく感じるが、群馬県全体あるいは全国的な傾向としてはどうか。

(事務局) 前橋市では、介護療養型医療施設2施設が転換していく予定である。群馬県内では現時点で2施設が介護医療院の指定を受けており、全国的に見てもそれほど進んでいない状況である。

(三俣委員) 施設整備が進まない理由として「人材確保」と「建築費の高騰」を挙げているにも関わらず、グループホームと小規模多機能型居宅介護の併設施設の公募要件を見直し、グループホームを2ユニットで整備するとなっている。より建築費がかかるようになると思うが、経営的な安定という側面を考慮しているということでしょうか。

(事務局) 小規模多機能型居宅介護とグループホームの1ユニットで整備を進めてきたが、小規模多機能型居宅介護の経営が安定しないという話を各事業者からいただき、比較的経営の安定するグループホームの整備を増やすことで、小規模多機能型居宅介護のうまくいかない部分をカバーしてもらおうという意図で変更している。初期経費として建築費は増えるが、全体の運営の中では負担が少なくなると考えている。

(野中委員) 認知症地域支援推進員が1名増員されているが、今年度の増員した理由や役割を教えてください。

(事務局)保健師が1名増員されたため、その1名が認知症地域支援推進員の研修を受講し、従来の1名と合わせ2名となっている。今後、推進員がどのようなことをしていくかは検討していくが、主に認知症ケアパスを中心になって進めることや、また認知症に関する情報は推進員に入るような体制づくりを始めている。

#### 4 市長諮問

- ・山本市長より牛久保分科会長へ諮問書の交付
- ・山本市長あいさつ
- ・牛久保分科会長より、諮問を受けてのあいさつ
- ・資料に基づき事務局（嶋原補佐）から説明

#### 5 その他

##### (1) 特別養護老人ホーム入所申込状況調査の結果について

- ・資料に基づき事務局（笹本補佐）から説明

##### (2) ひとり暮らし高齢者調査の結果について

- ・資料に基づき事務局（望月係長）から説明

##### (3) 今後の開催について（来年度は、2回開催予定）

- ・事務局（笹本課長補佐）から説明

#### <質疑等>

（桑原委員）認知症患者数の推計について、65歳以上だけでなく70歳以上、あるいは80歳、85歳以上等のデータも参考値として把握しておくべきではないか。

（事務局）国の動向も含めて検討したい。

#### 6 閉会